

アユの漁獲と資源状況について

1. アユ苗の漁獲状況(4月～5月:5月19日現在)

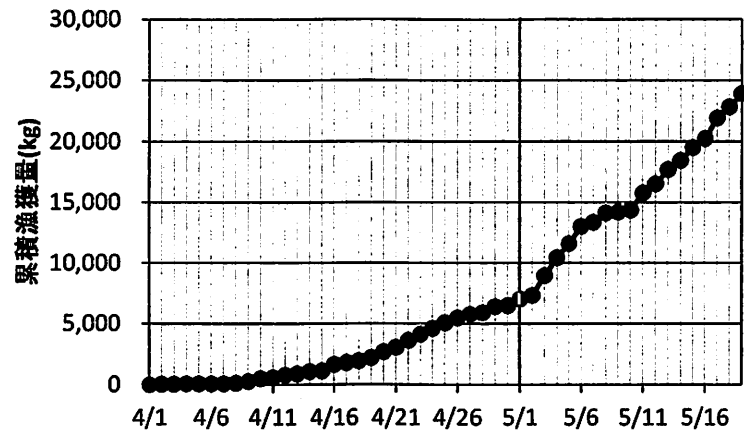


図1 4月～5月のアユ苗の累積漁獲量

① 4月の状況

- ・4月期の総漁獲量は6,501kgで、平年の2/3程度。エリの不振が顕著。

表1 漁法別の総漁獲量(4月)				(kg)
	エリ	ヤナ	追さで網	計
H31年4月	1,028	2,876	2,597	6,501
H30年4月	1,707	4,202	2,168	8,077
H21～H30 4月平均	5,221	2,871	2,060	10,152

② 5月の状況(5月19日まで)

- ・5月期の累積漁獲量は、17,415kgで、概ね平年の8割程度。
- ・4月と比較してエリでの漁獲が向上しつつある。

表2 1日平均漁獲量(5月)				(kg/日)
	エリ	ヤナ	追さで網	計
R元年 5/19まで	221	534	161	917
H30年 5/19まで	123	809	53	984
(参考:H21～H30) 5月の1日平均漁獲量	369	619	101	1,090

③漁業者からの聞き取り(5月19日まで)

- ・エリでは、4月下旬から漁獲サイズが大きくなり、北湖南部では漁獲も増えてきた。
- ・ヤナでは、降雨が少なく河川水量が少なくなり漁獲への影響が心配される。
- ・小糸網は、4月下旬から漁獲が増えて昨年よりも漁獲状況はよいが、日によってばらつきがある。

2. アユの資源状況

①周回コースによる魚群調査結果

○5月期は5月14日、15日に実施。

○3月までは平年比38%以下と少なかったが4月以降平年並みとなった。

○5月の魚群数は424群で、不漁であった平成29年の38倍、昨年の2.4倍で、平年の426群と同レベルとなった。

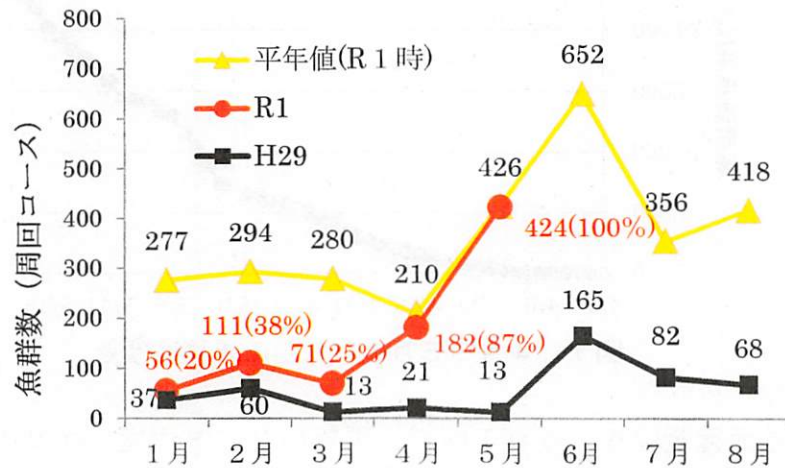


図2 魚群数(周回コース)の推移の年別比較

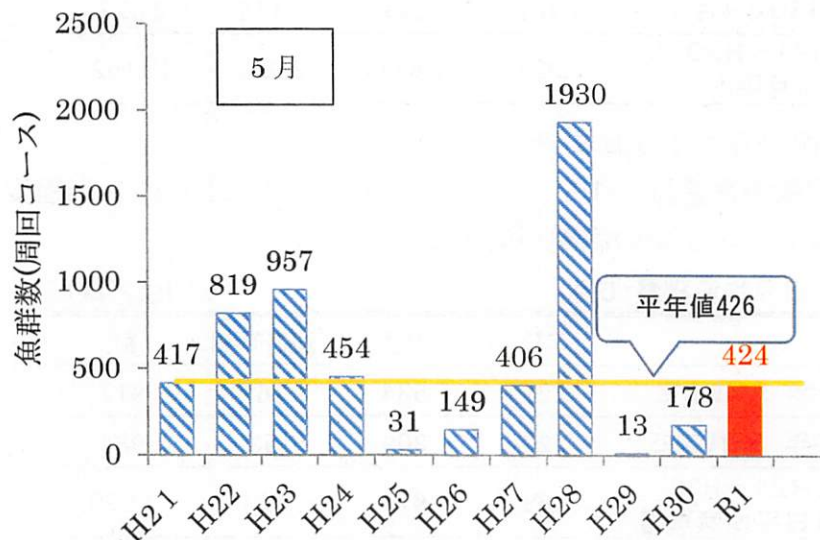


図3 5月魚群数(周回コース)の比較

②アユの体長

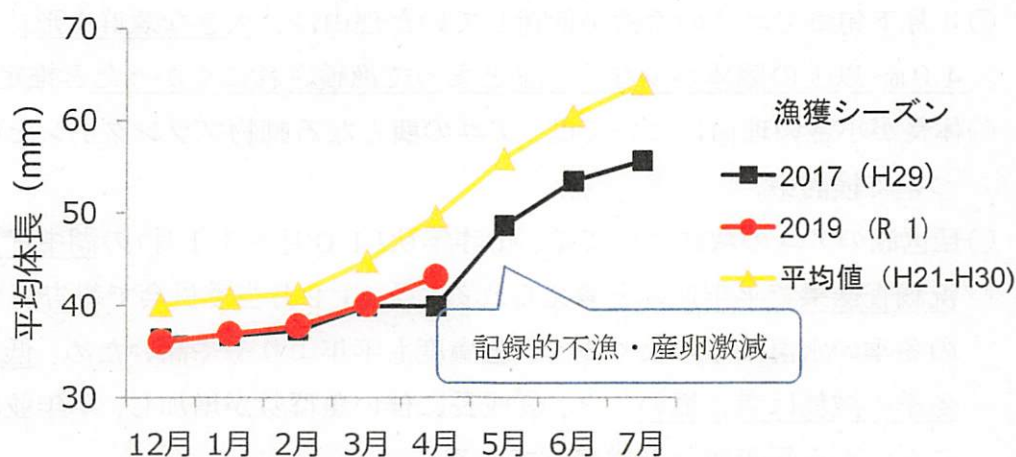


図4 エリ漁獲アユの平均体長の推移

○今シーズンは平均値より小さく推移し、3月までは記録的不漁であった平成29年シーズン(平成28年12月～翌年8月)と同等の推移。

○しかし、4月の平均体長が43mmとなり平成29年3月～4月のような停滞は見られない。

③アユの肥満度

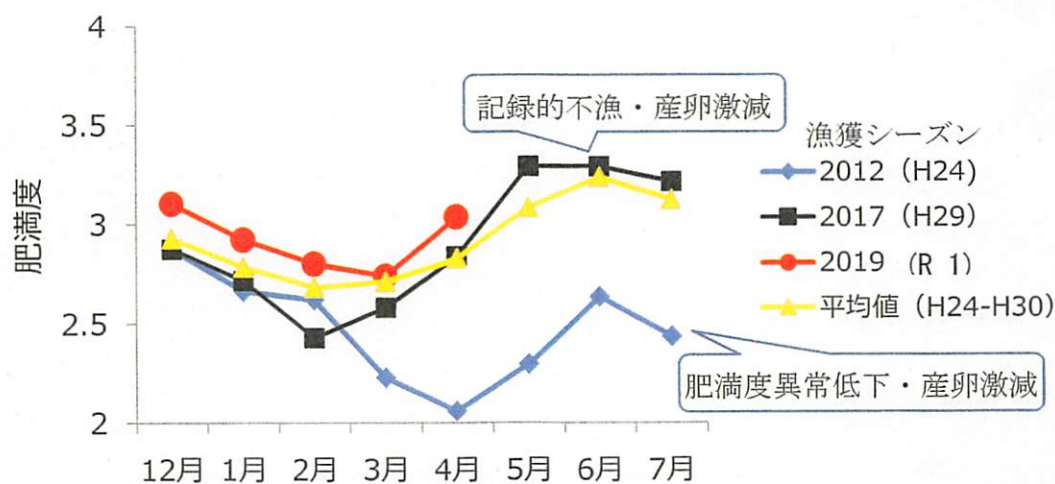


図5 エリ漁獲アユの肥満度の推移

○今シーズンは、平均値よりやや高く推移し、記録的不漁であった平成29年と異なり栄養状態は良い。

【まとめ】

- 4月下旬までエリの漁獲が低迷していた理由は、大きな魚群を形成する体長40mm以上の個体が少なく、まとまって漁獲されにくかったと推定。
- 体長が小さい理由については、アユの餌となる動物プランクトンとの関係等について検討中。
- 琵琶湖のアユの数については、①昨年秋(10月～11月)の湖中仔アユ生息状況調査結果で平年並みと考えられること(12月当委員会で報告済)、②その後の冬季の水温は平年より高く、肥満度も平年よりやや高いため、低水温による冬季の減耗は考え難いこと、③成長に伴い魚群数が増加し、平年並みとなったこと、から平年並みと推察している。

3. 今後の対応

- アユの耳石解析による成長状況(成長履歴)の調査
- アユの餌となる動物プランクトンの調査
- これらにより、アユが小さい理由の解明と資源の評価を実施